今月の人　　油　断　大　敵

岩手県県土整備部　道路環境課総括課長

中野　正志

9月に入りましたが、まだまだ暑い日々が続いています。いつものこととは言いながらも、団扇の効果の大きさと体力の無いことを痛感しながら、何とかやり過ごしたいものと思っております。

皆様も、元気に酷暑を乗り越えられますようお祈り申し上げます。

最近、暑い時期になりますとちょっと気掛かりなことを思い出します。それは、平成１４年の７月に災害救援ﾎﾞﾗﾝﾃｱでＨ町へお手伝いに出向いた時のことです。晴天で暑い日でしたが、合羽を着ながら床上浸水した一民家の中に溜まった泥を排除することがその日の作業内容でした。県庁から参加した有志の皆さんは、全員各々の体力とその日作業量のペース配分を考えながらも、汗と泥にまみれ黙々と渾身の力を出して働いたと思いました。救援の成果はどの程度であったのか、今では本当のところを知る由もありませんが、午後３時の休憩時に出された冷たい飲物を、ご家族や親族の方々とﾎﾞﾗﾝﾃｱのｽﾀｯﾌ全員で、心からの笑顔を浮かべながら飲み干した瞬間がすべてを表現していた様な気がします。

その日、体力のない私は、持参したおにぎりを摂った後頃から全く体が動かない状況になりました。（完全脱水？）そこで、力作業から押入れに潜り込んでの清掃作業に切替えて、単独で行動をしておりました。そのうち、押入れの奥から丁寧に梱包された泥まみれの紙製の菓子箱が出てきたのですが、大きさや重量感から、このままゴミ集積所へ運ぶべきではないと直感し、ほんの少し箱の蓋を開けて中を覗きました。中も泥水でひどく汚れていましたが、瞬時に写真を束ねた状態のアルバムであると分かりました。近くにいた家人らしき人に尋ね聞いて、多分アルバムの主ではないかと思われる初老のご婦人のところへ持参し、

「あの・・・・・これ・・・・・どうしますか・・・・」と聞きました。

（のぼせていて上手く会話が出来ない状態で適当な言葉が出てきませんでした。）

「もういいから・・・・・・・・捨てでけで・・・・」とそのご婦人。

しつこく「いや・・その・・・(大切な記録ですから)・・洗って乾かせばなんとかなります・・・・・」

「家中こんなになって・・・・いいから・・・・(捨てて)」

「・・・・(写真があればいつまでも若い日の記憶が蘇ると思うのですが)・・」

（註：文中（　）書きは発声できず。）

というやりとりの後、静かに引き下がり、少し整理のついた家中の場所を探し出し、別の家人が見つけること祈って、もう一度表面の泥を取り除きこっそり隅っこに置いて来ました。

菓子箱を少し開けて見てしまったこと、このことをどう説明してよいのか右往左往している自分、一回の洪水は、有無を言わせず大切な記録をもろとも消し去ること、記憶の強化や地域防災はどうすべきなのか等々、やりきれなさと歯がゆさで、何本も煙草を吸いながら夕刻帰宅いたしました。

このことは、そのほとんどが未整理のままいつもの夏を向かえるのですが、実験物理学者で文筆家、かつ愛煙家の寺田寅彦先生曰く「天災は忘れた頃にやってくる」を思い起こしながら、局地豪雨頻発の昨今、整理しきれない自分に向けて、「油断大敵、油断大敵」と反復復唱する次第であります。